

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本 I		介護福祉学科/1年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	谷川 雅世
授業の概要				
介護福祉士が必要とされている背景と、その専門性や職業倫理について学ぶ。 自立支援の観点から職業実践できる能力を養う。				
1. 介護福祉とは 2. 介護福祉士の役割と機能 3. 介護福祉士の倫理 4. 自立に向けた介護福祉のあり方				
授業終了時の到達目標				
介護福祉士の専門性を理解し、求められる職業倫理に従って行動できる。 利用者の尊厳を支え、自立を支援するための実践能力を身につけることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設等で13年の実務経験あり。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	【介護福祉とは】 介護の成り立ち	専門職による「介護」の成り立ち 老人福祉法が成立した社会背景		
2	【介護福祉とは】 介護の概念の変遷	老人福祉法制定後の「介護」に関連する施策の概要		
3	【介護福祉とは】 介護福祉の基本となる理念	介護福祉の基本となる理念		
4	【介護福祉士の役割と機能】 尊厳・自立	利用者主体、尊厳、自立を支える介護		
5	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士の活躍する場と役割	介護福祉士に求められる役割の変化・拡大 地域包括ケアシステム		
6	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士の機能	居宅サービス、施設サービス、災害の時の介護		
7	【介護福祉士の役割と機能】 社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法の概要 介護福祉士が守るべき義務規定		
8	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士の定義	介護福祉の専門職としての定義		
9	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士の専門性	「介護の倫理」の実践と「尊厳のある介護実践」 グループワーク		
10	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士養成カリキュラム	介護ニーズの変化と介護福祉士に求められる役割 求められる介護福祉士像		
11	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士をさせる団体	介護福祉士を支える職能団体や養成施設協会のはたらき		
12	【介護福祉士の倫理】 介護実践における倫理	介護に携わる人が持つべき職業倫理		
13	【介護福祉士の倫理】 介護福祉士の対応	事例を通して、倫理的な視点から考え、学習する。		

回	テ ー マ	内 容
14	【介護福祉士の倫理】 日本介護福祉会の倫理綱領	介護に携わる人がもつべき職業倫理 普遍的な倫理判断の視点
15	まとめ、前期末テスト	まとめ 前期末テスト

回	テーマ	内容		
16	【自立に向けた介護福祉のあり方】 自立支援とエンパワメント	利用者の自己決定による自立を支援する 介護福祉職がどうすれば良いのか		
17	【自立に向けた介護福祉のあり方】 自立支援とICF	対象者の潜在的な生活機能を引き出すためのツールである ICFについて		
18	【自立に向けた介護福祉のあり方】 介護における ICF のとらえ方	介護職だけでなく、あらゆる専門職の共通言語として用いられる重要な概念について		
19	【自立に向けた介護福祉のあり方】 リハビリテーションとは	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について		
20	【自立に向けた介護福祉のあり方】 リハビリテーションの実際	リハビリテーション 目的と役割、体系について		
21	【自立に向けた介護福祉のあり方】 障害の理解と評価	健康の概念や障害の捉え方		
22	【自立に向けた介護福祉のあり方】 リハビリテーションと自立	自身の価値感と自立の理解を深める 事例を通して、自分自身の人生の時期を書き出す		
23	【自立に向けた介護福祉のあり方】 リハビリテーションでの役割	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割について		
24	【自立に向けた介護福祉のあり方】 介護予防の概要	介護予防、活動や参加		
25	【自立に向けた介護福祉のあり方】 介護予防の種類と特徴	2006年の介護保険制度の改正に伴い、「介護予防」が国の制度として導入された経緯		
26	【自立に向けた介護福祉のあり方】 高齢者の身体特性と介護予防	高齢者の身体的な特性、生理的な特性		
27	【自立に向けた介護福祉のあり方】 介護予防の実際	介護予防を実践する上での個々の高齢者の状況を把握		
28	【自立に向けた介護福祉のあり方】 自立支援と介護予防	介護予防事業として各地で取り組まれているさまざまな「通いの場づくり」についてグループワークを行う		
29	【自立に向けた介護福祉のあり方】 介護予防における介護福祉士	介護予防における介護福祉士の役割 どこまで支援するかの判断		
30	まとめ、後期末テスト	まとめ 後期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 中央法規出版	介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I	出席率 授業態度 確認テスト 課題・レポート 期末試験	30.0% 20.0% 10.0% 20.0% 20.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I		介護福祉学科/1年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	谷川 雅世
授業の概要				
<p>生活支援における具体的な介護技術を学ぶ。 利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方などを学ぶ。 介護福祉士が行う生活支援の意義と目的を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自立に向けた身じたくの介護 2) 自立に向けた移動の介護 3) 自立に向けた入浴の介護 4) 自立に向けた排せつの介護 5) 自立に向けた食事の介護 				
授業終了時の到達目標				
利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活の継続ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設等で13年の実務経験あり。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストを熟読しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	【自立に向けた身じたくの介護】 生活とは	介護福祉職として、「ひとの生活」の基本的に理解		
2	【自立に向けた身じたくの介護】 自立した身じたくとは	疾病や障害があり介護を必要な人の「自立」した身じたくについて		
3	【自立に向けた身じたくの介護】 アセスメント	対象者のアセスメント=情報を集めるグループワークを行う		
4	【自立に向けた身じたくの介護】 整容、衣生活の調整	生活のリズムを整える、健康維持 自分らしさの表現、生活の中の楽しみ		
5	【自立に向けた身じたくの介護】 身じたくの介助	利用者の現状を情報として捉える 介護を行う際の確認ポイント		
6	【自立に向けた身じたくの介護】 利用者の状態に合わせた介護の留意点	洗顔、整髪、ひげそり		
7	【自立に向けた身じたくの介護】 多職種との役割と協働	他職種の役割と介護福祉職との連携(医療、美容・理容師、福祉環境コーディネーター、ケアマネージャー)		
8	【自立に向けた身じたくの介護】 実技テスト	ベッドメイキング 身じたくに関する介護技術		
9	【自立に向けた移動の介護】 移動の意義と目的	移動のあり方 介護福祉職のすべきこと(全介助、一部介助)		
10	【自立に向けた移動の介護】 アセスメント	心身の状況に合わせた介護を行うために 情報収集、利用者を理解する		
11	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動の介護	歩行のあり方 介護福祉職のすべきこと(全介助、一部介助)		
12	【自立に向けた移動の介護】 歩行介助の留意点	視覚障がい者への支援方法 ・施設内、施設外		
13	【自立に向けた移動の介護】 安全な移動・移乗の介護	車いす操作方法 移乗、移動		

回	テ ー マ	内 容
14	【自立に向けた移動の介護】 移乗時の留意点	全介助・一部介助時の留意点
15	【自立に向けた移動の介護】 福祉用具の意義	公的制度における福祉用具サービス 障害者総合支援法における福祉用具サービス

回	テーマ	内容
16	【自立に向けた移動の介護】 多職種連携	移動に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
17	【自立に向けた移動の介護】 実技テスト	起居介助 車いす介助（全介助・一部介助）
18	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 清潔保持の観点	清潔・入浴の目的 一連の流れ
19	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 多職種連携と介護福祉士としての役割	清潔保持に関する職種の役割 介護福祉職との連携のあり方
20	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 アセスメント	入浴時のアセスメント項目 利用者の状態への理解とか変わり方
21	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	個浴 特浴（一部・全介助）
22～ 23	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	シャワー浴 清拭（一部・全介助）
24	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 状態に合わせた入浴方法	陰部洗浄 臥位での足浴
25	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 入浴後の観察	バイタル 水分補給
26	【自立に向けた清潔・入浴の介護】 足浴・手浴	足浴 手浴
27	【自立に向けた排せつの介護】 排せつの意義と目的	自立した排せつとは 自立した排せつの一連の流れ
28	【自立に向けた排せつの介護】 アセスメント	排せつの介護 心身の状況に応じた介護
29	【自立に向けた排せつの介護】 環境整備	介護職としての環境整備
30	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助1	排せつの一連の流れ
31	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助2	ベッド上 おむつ交換、尿器、便器、一連の流れ
32	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助3	トイレ介助① トイレ・ポータブル誘導
33	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつ介助4	トイレ介助② おむつ、リハビリパンツ
34	【自立に向けた排せつの介護】 尊厳を考えた排せつの介助5	歩行可能な利用者の介助 一部介助、半介助、全介助
35	【自立に向けた排せつの介護】 多職種の役割と協働	関連した多職種の役割 介護職としての排せつの役割
36	【自立に向けた排せつの介護】 実技テスト	おむつ交換・トイレ介助

回	テーマ	内 容		
37	【自立に向けた食事の介護】 食事の意義と目的	食事をとるとは 高齢者のにとっての食事の意義		
38	【自立に向けた食事の介護】 アセスメント	利用者の状態を把握する上で必要な視点 情報収集		
39	【自立に向けた食事の介護】 食事介助1	自立に向けた食事介助方法		
40	【自立に向けた食事の介護】 食事介助2	全介助の一連の流れ		
41	【自立に向けた食事の介護】 多職種連携の役割と協働	自立した食事につなげるための多職種連携とは		
42	【自立に向けた食事の介護】 実技テスト	ベッド上での食事介助		
43	事例検討1	グループワーク（・食事介助が必要な利用者への支援方法 ・水分不足の利用者への支援方法）		
44	事例発表	発表		
45	まとめ	自立に向けた生活支援技術の展開とは		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 I 6・II 7・III 8 中央法規出版 適宜資料 プリント		出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価	30.0% 10.0% 30.0% 30.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ		介護福祉学科/1年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	6単位(90時間)	必須	谷川 雅世

授業の概要

在宅のあり方を理解し、利用者・家族に対して生活の支援を行うための技術を身につける。
災害や緊急時など、介護福祉士としての役割を理解することができ多職種協働を行うことができる。

- 1) 生活支援
- 2) 自立に向けた家事の介護
- 3) 応急手当の知識と技術
- 4) 災害時における生活支援
- 5) 人生の最終段階における介護

生活の豊かさを高める観点から余暇時間に行うレクリエーションについて知識・技術を身につける。

- 1) レクリエーション活動援助者の役割
- 2) レクリエーション活動計画の作成及び実施方法

授業終了時の到達目標

生活支援とは何かを理解し、適切な家事支援を行うことができる。
他職種と連携し緊急時の対応を適切に行うことができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	介護施設等で13年の実務経験あり。

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	【生活支援の理解】 生活支援とは	生活支援とは 生活支援のあり方
2	【生活支援の理解】 生活支援の基本的な考え方	ライフサイクルと生活の豊かさ 生活支援のポイント
3	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程	ICFとは ICFの視点
4	【生活支援の理解】 生活支援と介護過程	ICFと生活支援 心身の状況に応じた生活支援
5	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ①	チームアプローチの重要性
6	【生活支援の理解】 生活支援とチームアプローチ②	ライフステージとチームアプローチ
7	【自立に向けた家事の介護】 自立した家事とは	自立生活を支える家事 一連の流れ
8	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護①	洗濯
9	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護②	掃除
10	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護③	衛生管理
11	【自立に向けた家事の介護】 自立に向けた家事の介護④	買い物、家計の管理
12	【自立に向けた家事の介護】 他職種との連携	在宅の場合 施設の場合

回	テ ー マ	内 容
13	【応急手当の知識と技術】 応急手当について	想定される事故と予防の視点 応急手当の実際
14	【災害時における生活支援】 被災地での活動と生活支援	被災地での生活支援 支援者としての在り方
15	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成1	被災地における活動場所 ハザードマップの作成

回	テ ー マ	内 容
16	【災害時における生活支援】 ハザードマップ作成2	ハザードマップの作成
17	【災害時における生活支援】 まとめ	発表 まとめ
18	【休息・睡眠の介護】 睡眠とは	休息・睡眠とは 休息・睡眠の効果
19	【休息・睡眠の介護】 状態に応じた睡眠の介護	安眠を阻害する要因 安眠を促すために
20	【休息・睡眠の介護】 アセスメント	一連の流れ アセスメント
21	【休息・睡眠の介護】 環境整備	環境を整える ベッドメイキング
22	【休息・睡眠の介護】 多職種連携による支援	多職種連携に必要性
23	【休息・睡眠の介護】 多職種連携による支援	他職種の役割と介護福祉職との連携
24	【人生の最終段階における介護】 人生の最終段階の意義	人生の最終段階におけるケアの意味
25	【人生の最終段階における介護】 介護の役割	アセスメントの視点
26	【人生の最終段階における介護】 人生の最終段階における介護	死をむかえる人の介護
27	【人生の最終段階における介護】 なくなったあとの介護	グリーフケア
28	【人生の最終段階における介護】 多職種との連携	多職種連携の必要性
29	まとめ	日常生活の変化 まとめ
30	【レクリエーション】 レクリエーションの意義と目的	レクリエーションとは
31	【レクリエーション】 行事とは	行事の意義と目的
32	【レクリエーション】 福祉レクリエーション	レクリエーションと福祉レクリエーション
33	【レクリエーション】 個別レクと集団レク	個別レクリエーション 集団レクリエーション
34	【レクリエーション】 個別レクリエーションプログラム	個別レクリエーションのプログラム
35	【レクリエーション】 集団レクリエーションプログラム	集団レクリエーションのプログラム

回	テーマ	内容		
36	【レクリエーション】 多職種連携	レクリエーションにおける多職種連携		
37	【レクリエーション】 レクリエーション企画①	レクリエーションの企画 留意事項		
38	【レクリエーション】 レクリエーション企画②	利用者とレクリエーション		
39	【レクリエーション】 プログラム作成	プログラムの作成		
40	【レクリエーション】 コミュニケーションワーク	コミュニケーションワーク		
41	【レクリエーション】 アイスブレイキング	いろいろなアイスブレイキング		
42	【レクリエーション】 支援実習：企画	レクリエーションを企画する		
43	【レクリエーション】 支援実習：準備	企画したレクリエーションの準備		
44	【レクリエーション】 支援実習：実践	レクリエーションの実施		
45	【レクリエーション】 まとめ・評価	振り返りと評価 まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 I6 II7 III8 中央法規 出版		出席率 授業態度 課題・レポート 実習・実技評価	30.0% 10.0% 30.0% 30.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う